

編 集 後 記

物性研本館は独創的な構造をしています。初めて物性研を訪れる人にとって、居室棟と実験室棟を結ぶ数多くの渡り廊下は目をひくものの一つでしょう。しかし多くの物性研住民は渡り廊下を厄介者に感じておられるのではないのでしょうか。なければ十数歩で居室、実験室の行き来ができたでしょうに渡り廊下のせいで何倍か余計に歩かなければなりません。また柏の葉特有(?)の強風の日にはドアを開けるのに相当な力が必要ですし、雨の日には特に四、五階の真ん中の廊下は悲惨です。

しかし、何かしら研究のことを感じ考えながら歩くこの短い時間は実に貴重な瞬間であると思いませんか。研究上の良いアイデアというのは、机で悶々としているときより得てしてこういうときにこそ閃くものかもしれません。実験が成功した後の喜びが込み上げる瞬間、失敗した後の悔しさで一杯になる瞬間はココではないですか?ベネツィアには「溜息の橋」と呼ばれる橋があります。これは宮殿と牢獄を結ぶ通路を囚人が通ることから名付けられたそうです。さて皆さんがよく使われる「橋」にそれぞれ名前をつけるとしたら何になるのでしょうか?

なお、次号の原稿締切りは6月11日です。

所属又は住所変更の場合等は事務部共同利用掛までご連絡願います。

陰 山 洋
上 田 寛